

職員による自己評価

A環境面

- ・法令を遵守したスペースは確保しているが、人数が増えてきて狭く感じる。
- ・さらに利用者が増えることや長期休みのことを考えると、追加の人員が必要。

B児童への支援内容

- ・保護者面談をしたうえで個別支援計画を作成し、曜日ごとのカリキュラムに季節や行事などの要素を取り入れ、様々な活動を行っている。
- ・日々のタイムテーブルを作成し、職員間で共通認識を持って支援を行っている。

C関係機関との連携

- ・学校との連携は送迎時や保護者を通して行っている。相談支援事業所は現状利用者がいない。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・保護者と連絡が取れる体制は取れており、必要に応じて適宜個別に対応することができている。
- ・地域住民の招待や保護者同士の連携の機会は持っていない。

E非常対応

- ・マニュアルの策定・委員会の設置など、法人で行うことができおり、情報を職員間で共有している。

保護者による評価

A環境面

- ・教室がもう少し広いと良い。
- ・職員の配置や経歴などがわからない。

B児童への支援内容

- ・ニーズに応じた放課後等デイサービス計画が作成されている。
- ・児童は通所を楽しみにしており、支援の内容にもおおむね満足している。
- ・外部の児童との交流があるかわからない。
- ・長期休暇等では外出プログラムがあると良い。
- ・職員の対応で不快に感じたことがあった。

C事業所からの情報発信

- ・必要なことの説明や情報発信は行われている。
- ・保護者会をやってほしい。
- ・苦情があるかどうかはわからない。

D非常対応

- ・各種マニュアルの策定、避難訓練等は実施されている。

事業所内での分析

【共通点】

- ・指導訓練室が狭い。 ・職員の人数がまだ足りていない。
- ・適切な個別支援計画が作成されている。 ・児童は通所を楽しめている。
- ・事業所から保護者への情報発信はできているが、保護者同士の連携の場がない。
- ・マニュアルの策定や避難訓練等は行われている。

【相違点】

- ・職員の経歴がわからない。
- ・職員の対応で不快に感じたことがあった。
- ・外出のプログラムがあると良い。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・児童が通所を楽しめている。
- ・保護者との連絡体制が整っている。
- ・個別計画や各種マニュアルの作成、避難訓練の実施などが適切に実施できている。

事業所の改善点

- ・指導訓練室の狭さ、職員配置などの環境面がまだ整っていない。
- ・保護者同士の連携の場がない。
- ・地域への参加が少ない。
- ・外出などのプログラムが少ない。

事業所の改善への取り組み

- ・事業所の移転を検討しており、候補地を探している。
- ・職員の採用を引き続き進める。
- ・授業参観のように支援の様子を見学できる機会を作り、保護者同士のつながりの場としていきたい。
- ・学校休業日のプログラムを見直す。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者との連絡体制や情報発信については昨年度からの改善が見られている。新しい児童が増えた際にも継続していきたい。

一方で、昨年度からあった保護者同士の連携についての要望を改善できていなかったもので、改善に向けた取り組みを確実に実施していきたい。

事業所名 クオリティ・オブ・ライフ保土ヶ谷支援教室

担当者 原田 大和